

1. 評価結果概要表

作成日平成19年7月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4570300550
法人名	株式会社 悠隆
事業所名	グループホーム「牧水苑」
所在地	宮崎県延岡市北小路8番地10 (電話)0982-26-5115

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成19年6月6日

【情報提供票より】(平成19年 5月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 3 月 16 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	26 人
職員数	24 人	常勤	13 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 21.7

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	5 階建ての	3 階 ~	5 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	120 円	昼食	240 円
	夕食	240 円	おやつ	66 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	25 名	男性	2 名	女性	23 名
要介護1	5 名	要介護2	9 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.4 歳	最低	72 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	早田病院、医療法人千隆会田中医院・西階クリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

五ヶ瀬川辺に建つホームは、城山の鐘の音や市街地の向こうに愛宕山を眺め、既存のホテルを改装した南向きの明るい建物である。部屋は洋室、和室があり、和室の入り口等には段差があるが、分かりやすく表示されており、食事、掃除と同様に生活リハビリと捉えている。ホームの理念のもと管理者と介護する職員との信頼関係も強く、入居者を生活のパートナーとして、家庭的な雰囲気作りに配慮した生活を支援している。ただ、建物の構造や近隣の人が少ない等から新築移転先への期待も大きい。ホームに属する医療法人、社会福祉法人があり福祉サービスの多様な取り組みから、安心した生活が期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題にあった「ホームの運営理念や役割が地域に理解され、支えてもらえるようなかわりを持つ事」について、管理者と職員が老人会に出向きホームの啓発をすると共に地区の区長さんにも働きかけ、市の広報紙を届けてもらえるようになっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニット毎に主任を中心に全職員で取り組み、反省と目指す方向を主任がまとめ、職員全員で日常のケアに活かすように積極的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者の状況や運営に関する事、事業等を運営推進会議で報告を行い、話し合いで出た意見については、次回の会議で、結果等を報告することになっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	気軽に何事も話してもらえるように、働きかけをしている。また、家族の意見等は苦情処理簿に記載し速やかに対応し、全職員に周知するなど、本人、家族に納得のいく説明をするようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の保育所との交流や地域の行事への参加、ボランティアやホームの夕涼み会に地域の人の参加もあり、消防団や自治会、日常生活における近隣との連携も徐々に出来てきている。

2. 評価報告書(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型としての理念はつくられていないが、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして事業所独自の理念はつくられ実践している。	○	今年には平屋建ての新しいホームが着工されるので、地域密着型サービスとしての理念作成に大きな期待と希望が管理者から窺えたので実現可能な取り組みを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「明るく笑顔で、ゆとりをもってあせらず待つ」という介護理念を管理者と職員は節目節目に唱和し、日々ケアプランに沿うような取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会で認知症の理解を深めるための話をして、自治会の区長から市の広報が届けられるようになり、また、地域の保育所との交流を行い、消防署だけでなく、地域の消防団を招いての防災訓練を計画するなど地域との交流促進に向けた取り組みが行われている。	○	移転先のホームでも同じように地域住民ボランティアや学生ボランティア等の受け入れや、地域住民との日常生活の中での密着した交流を期待したい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価をすることで、目指す方向がわかり、前回の評価の改善策を職員全体で話し合い、家族や入居者とも話し合いながら、ケアに活かす取り組みを行っている。その結果、入居者が食事準備の手伝いや活発に行動されるようになっていく。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では評価調査についての報告をすると共にホームの行事計画や報告など行い、提言を受け、サービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には運営推進会議に出席を依頼し、苦情処理、介護事故などの報告をしている、また、費用に関する事など、常に市の担当者と連絡、相談を行っている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りで様子を知らせたり、健康状態は逐次連絡をし、家族来訪時には情報の提供や、要望を伺うようにしている。また、金銭は原則預からないので、買物は立て替えて個人で支払うような形をとり、内容を家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口はホームと公的窓口が重要事項説明書に明記されており、些細な苦情に対しても、即対策を講じると共に処理簿に記載し、ミーティングで話し合い運営に反映させるようにしている。	○	家族に要望などを聞くようにしているが苦情等あまり聞くことがない。意見箱の設置を検討されているので、取り組みをすすめてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はユニット間の異動を優先的に行うようにしているため、利用者への影響はあまり感じられない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は基より、社内外研修など勤務の状況を考慮しながら参加し、会議等機会ある毎に発表し、報告書にまとめ職員に回覧している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの県北ブロック研修会に参加することで、他の事業者との交流、勉強会の機会ととらえている。	○	今年度の県北ブロックのお世話をされるということで、管理者の研修に関する希望、期待は大きく、実現できることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームや他の入居者に慣れるまでに2・3ヶ月かかるが、職員は理念である「明るい笑顔で、ゆとりをもった、あせらず根気よく待つ介護に心がけます」とあるように、家族と相談しながら、入居者に応じた対応を心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の生活歴を知り、調理の方法や味付けを学んだり、手芸を共にしながら作品を完成させ共に良い関係づくりがなされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	型にはまらず、自由に過ごされるようにと、ケアサービスのアセスメントには、生活歴や、家族関係、本人・家族の思いや希望が記載され、ケアプランに活かされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「暮らし方シート」と「出来ること出来ないことシート」を利用し課題とケアのあり方について、職員全員がかかわり、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者支援経過で毎月モニタリングを行い、状態変化がある場合はその都度、変化のない場合でも3ヶ月毎の介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の有料老人ホームに訪れる売店や浴槽を利用したり趣味の俳句、ちぎり絵、3B体操に参加したり入居者の希望に応じホームでは出来ないことを支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医に継続して行けるように、基本的には家族が連れて行き、緊急時とやむを得ない場合は職員が受診できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、マニュアルを作成しており、その時が近づいた時は、早い段階から、本人や家族等と話し合う準備は出来ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として憧憬の念と礼節をわきまえ、入居者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した対応を心がけて支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの理念にあるように根気よく待つ介護を実践するために時間にそった業務を見直し、入居者中心の流れを作るように努め、一人ひとりのペースを尊重した支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片づけを入居者と職員が一緒にしており、職員も入居者と同じ物を食しながら優しく声かけしたり、口元を拭くようにそっとティッシュを手渡したり和やかな雰囲気がある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴回数や時間など入居者や家族と相談しながら決めているが、居室のシャワーを使ったり、共同の浴室を利用し夏は毎日でも入浴するようにしている、また、特浴の必要な人は、有料老人ホームを利用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や残存能力を活かして、縫い物、生け花、団子作りなどを入居者と職員が共同作業することで、楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望にそって、ホームの買物に職員と同行して入居者自身の買物をしてもらったり、散歩や、草取りなど、また、車で城山や植物園に出かけるなど、可能な限り戸外に出かけるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の3, 4, 5階部分がホームになっており、玄関は外階段のあるフロアーからの入り口になっているが、入居者の安全面を考慮し家族の了解を得て鍵をかけている。外出する時は、エレベーターを利用している。	○	鍵をかけない工夫をしてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年2回実施している、今年は系列の有料老人ホームと合同で消防署と近くの消防団から指導を受ける予定である。なお、災害に備えての応急手当、緊急時対応マニュアルと備蓄食料も準備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの主食、副食、おやつの摂取量を記録して状態を把握している、また、献立については、系列の老人ホームの栄養士に相談している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の入り口には、家族が持参したのれんにその人らしさが見受けられたり、廊下の白壁や共用空間は、和風を演出するような取り組みが窺える、また、食堂等は大きなガラス窓が明るく、外の自然環境が居心地よく過ごせる場所としている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋の眺めは抜群で川向こうに城山、市街地、遠くに愛宕山等を望み、部屋には生け花を活けている人、壁に絵を貼ったりそれぞれに自宅から持ち込まれた物に囲まれて、落ち着ける生活の場となっている。		